

特定非営利活動法人 OurPlanetTV

2011年度 事業報告書

1、 事業実施の報告

2011年は、3月11日の東日本大震災と福島第一原子力発電所事故により、当初の事業計画とは大幅に内容を変更することとなりました。3月11日から約1ヶ月はほぼ毎日のようにサイトを更新し、東日本大震災に関するボランティアや寄付などに関する情報および福島第一原発事故に関する情報を報道。サイトへのアクセスが急上昇し、とりわけ、福島および関東地域からの視聴が大幅に増えました。また、7月からは朝日ニュースターで「ContAct」を配信することとなり、これまでインターネットのみだった視聴層が大幅に広がりました。

サイトへのアクセスが急速に高まった背景には、既存のマスメディアに対する強い不信感が背景にあります。OurPlanetTVへ送られてくるメールの多くには、マスメディアへの不信と、事実を知りたいという強い願い、そしてOurPlanetTVへの感謝の言葉が書かれています。確かに、原発事故に伴う様々な事象は、すべてが初めてのことであり、裏付け取材が極めて難しいという現実があります。小さなミスであっても、視聴者をミスリードし、信頼を損ねる可能性を秘めています。このために、知りうる情報一つひとつに対し、慎重にならざるを得ません。何が今、最も大切な情報なのか。この問いを常に抱えながら私たちは情報を取捨選択し、丁寧に情報源にあたり、動画や記事を配信するという姿勢を貫いてきました。この10ヶ月の間、一度も、誤った事実を報道したことはないというのが、私たちの誇りです。そして、私たちがこうした活動ができている背後には、私たちと志を共にするフリーのジャーナリストや活動を支えてくれる視聴者、支援者の存在抜きにはありえません。これまで10年間で積み上げた様々な関係性が今、私たちの活動を支えていると強く感じる1年となりました。

一方、財政面から見ると、非常に厳しい1年となりました。東日本大震災の影響で、多くのNPO/NGOが被災地支援を行う中、従来 of 事業の柱としていた映像の受託制作は激減し、予算のわずか二分の一の水準まで下がりました。

4月に導入したオンライン寄付は、8月からスタートした認定NPO取得プロジェクトによって、寄付金額が急増。また、周年記念パーティーでも、多くの方から支援をいただくことができましたが、それ以外でのファンレイジングを広げることができず、収入減を埋めることはできませんでした。

原発報道で広がった認知度を、どのように支援や資金の獲得に結びつけることができるのかが、私たちの今後の課題です。

代表理事  
白石草

(1) 会員数 \*2011年12月末日現在 (カッコ内は前年との増減)

\*正会員 31 (増減なし)

\*賛助会員 個人 119 (28増) 団体 6 (1増)

(2) 従業員の状況 \*2011年12月末日現在

\*フルタイムスタッフ3名

(3) 活動の拠点

\*東京事務所・京都事務所

## 2、 事業実施に関する事項

---

### —コンテンツに制作に係る事業—

#### (1) 市民の視点や人権・環境を考慮にいたした番組の制作

##### 独自企画番組の制作および配信

###### 【事業内容】

###### 映像作品 (ContAct/NewsClips/Documentary)

3月11日から約1ヶ月はほぼ毎日のようにサイトを更新し、東日本大震災に関するボランティアなどに関する情報および福島第一原発事故に関する情報を提供。特に、原発の子どもの被曝に関する番組等は反響が大きく、視聴者が大幅に増えた。

これらの番組は、海外でも視聴されており、ZDP、AP、BBCをはじめ、世界各地のメディアから問合せが殺到した。フランスやカナダ、ドイツなどから翻訳をしたいとの声が届いているほか、オルタナティブメディアの代表として、海外メディアから日本のメディア状況や、政府の情報公開などについて取材されることも増えている。

7月からは、朝日ニュースターでの放送が開始。週1回のテレビ放送のため、制作体制に負荷がかかり、番組開始当初は厳しい状態が続いたが、ネットにアクセスできない層、とりわけシニア層など新たな視聴者が増え、大口寄付につながるケースもあった。同番組は、毎週複数のボランティアに支えられて放送を実施している。

- ◆ 原発事故直後に双葉町に入り取材を行っていた広河隆一さんとJVJAの森住卓さんのスカイプレポートは、原発周辺で非常に高濃度の放射性物質が拡散していることを報道。「放射能漏れはない」とするマスメディアの報道を真っ向から否定するものとして、社会的に大きなインパクトを与え、数日で30万のアクセスがあった。
- ◆ 3月21日に、東京で開催された広河隆一さんと広瀬隆さんの緊急講演会「福島原発現地報告と『原発震災』の真実」のライブ配信を実施。同時視聴が6000人を超え、アーカイブの視聴も10万を超えた。
- ◆ JVJAメンバーであり、OurPlanetTVの賛助会員でもあるジャーナリストの綿井健陽さんが、原発作業員Tさんを継続的に取材。3月19日、3月22日、3月26日、5月6日、6月21日、8月24日、10月6日の計7回、OurPlanetTVにて動画を配信した。Tさんのレポートを心待ちにしている視聴者も多い。
- ◆ 4月10日に、城南信用金庫の吉原毅理事長の「脱原発宣言」を取材掲載。インタビューは大きな反響を呼び、城南信用金庫ブームに火をつけた。
- ◆ 4月以降は、子どもと被ばく問題にフォーカスした取材を展開し、特に学校の20ミリ許容基準などに関して、いち早く報道。基準撤回への世論を高める役割を果たした。また、避難、疎開に関しても、この問題を扱う数少ないメディアとして、東北、首都圏などの子どもを持つ世帯、とりわけ母親の視聴が増加した。また、OurPlanetTVの取材や番組を契機に、避難を決断した家庭も少なくない。
- ◆ 原発事故から3ヶ月目の節目にあたる6月11日に脱原発10万人アクションのライブ中継プロジェクトを独立系のインターネットメディアIWJと協力し実施。全国30カ所以上のアクションをネット中継し、市民の動きを可視化する作業を行った。9月には、明治公園で開催された脱原発5万人集会のライブ配信を実施した。
- ◆ OurPlanetTVは、マスメディアが取材していない市民集会やデモなどを取材することも多く、後日、テレビ局などから映像の素材提供を求められるケースが増えている。また、低線量被曝や健康被害などのに関して、雑誌や新聞の記者から、資料提供を求められたり、相談を受けたりする機会も増えている。
- ◆ 2012年新春特別番組として朝日ニュースターより2時間の放送枠を獲得。福島原発事故や被曝の問題について、子どもたちを主体に番組を企画。放送以前の段階で多くの賛同を集め、放送後は国内外からも反響があった。



## 【配信実績】

### ◆ ContAct 32本

- 3/14 『放射能による内部被ばくへ警告～緊急現地報告』 日本ビジュアルジャーナリスト協会
- 4/ 2 『「もう原発はいらない」 上関原発予定地からの報告』 上関原発予定地レポート
- 5/ 7 『子どもを襲う放射能の不安』 大賀あや子 (ヒロアクション) / 阪上武 (フクロウの会)
- 5/18 『子どもを守りたい～息子を失った母、語る』 嶋橋美智子 (元原発労働者母親)
- 6/13 『個人の情報が監視される！？～コンピュータ監視法を問う』 山下幸夫 (弁護士)
- 6/21 『「現場は戦争」～福島第一原発の作業員Tさんインタビュー』 福島第一原発作業員Tさん
- 7/ 7 『今、求められるパブリックアクセス』 津田正夫 (立命館大学教授)
- 7/14 『放射能で広がる異変～子どもたちに何が起きているか』 野呂美加 (チェルノブイリへのかけはし代表)
- 7/21 『なぜ、ドキュメンタリーをとるのか』 想田和弘 (映画監督)
- 7/28 『寄付革命！～税制改正でお金の使い道が変わる？』 松原明 (NPO 法人シーズ)
- 8/ 5 『内部被ばくに警鐘』 クリス・バズビー (欧州放射性リスク委員会)
- 8/11 『震災の記録を市民の手で～3がつ11にちをわすれないために』 甲斐賢治 (せんだいメディアテーク)
- 8/18 『ブームのかけで広がるペットの殺処分～どうなる動物愛護法？』 野上ふさ子 (地球生物会議 ALIVE)
- 8/25 『低い目線で見つめたい～映像グルーポポジション』 常田高志 (映画監督)
- 9/ 1 『子どもたちを放射能から守りたい』 中手聖一 (子どもたち福島ネットワーク代表)
- 9/ 8 『911 事件から 10 年～イラクと福島を結ぶ』 佐藤真紀 (JIMNET 事務局長)
- 9/15 『30 年間、反原発を訴えて』 鎌田慧 (ルポライター)
- 9/22 『ゼロ年代のドキュメンタリー性』 大澤一生 (映画プロデューサー)
- 9/29 『施錠される公園～宮下ナイキパーク』 藤井光 (美術家)
- 10/14 『世界を見る窓に』 藤岡朝子 (映画祭ディレクター) / 金稔万 (ドキュメンタリー監督、NDS)
- 10/20 『放射能で汚染されたイラクと日本を結ぶ』 ムハンマドイブラヒム (JIM-NET)
- 10/27 『正念場！ どうなる自主避難者の補償』 福田健治 (弁護士)
- 11/ 7 『生き方は多様だ～関西クィア映画祭』 ひびのまこと (関西クィア映画祭 共同代表)
- 11/10 『どうする？ 震災がれきの処分』 中地重晴 (熊本学園大学教授)
- 11/17 『動物虐待をどう食い止めるのか？～法改正前に徹底検証』 野上ふさ子 (地球生物会議 ALIVE)
- 11/24 『「大津波のあとに」～震災を撮る～』 森元修一 (映画監督)
- 12/ 1 『もう原発はいらない！～臨界事故を経験した東海村の村上村長激白』 村上達也 (東海村村長)
- 12/ 8 『なぜ避難勧奨地点にならないのか～苦悩する福島市渡利地区』 満田夏花 (FoE Japan)
- 12/15 『チェルノブイリからの警告』 ステパノワ博士 (ウクライナ放射線医学研究センター)
- 12/22 『尿検査から見えてきたもの～内部被曝の現状』 青木一政 (福島老朽原発を考える会)
- 12/29 『ドキュメンタリーを大胆かつユニークに』 早川由美子 (ドキュメンタリー映画監督)
- 12/29 『私たちの未来は大丈夫？～子どもが考える原発と被曝』 子どもたちによる 2 時間の特別番組

### ◆ NewsClips 計 76 本

- 1/11 『沖縄・高江 米軍ヘリパッド建設に対し 米国大使館へ抗議』
- 1/27 『記者クラブ問題に取り組むジャーナリストら主催～小沢氏会見』
- 2/ 7 『渋谷区で不透明な土地買収～区民の要望はあったのか？』
- 2/18 『給食の栄養が足りない～献立改ざんの裏側』
- 3/13 『【原発事故】計器メーター振り切れ、放射線測定不能』
- 3/17 『福島原発の現状と予想される危険～後藤政志さん』
- 3/22 『「覚悟はしています」福島原発・作業員の証言』
- 3/26 『「明日から入ることになりました」原発作業員・続報』

- 4/15 『城南信用金庫が脱原発宣言！～理事長インタビュー』
- 4/16 『福島原発10基廃炉に～署名2万8000筆を提出～』
- 5/6 『「福島原発に入って2週間」～原発作業員・続報』
- 5/7 『渋谷で「反原発」デモ～1万5000人が参加』
- 5/24 『「20ミリシーベルト基準」撤回を～福島のパパママが文科省に要請行動』
- 5/27 『被災者支援の政策などに「女性の視点を！」～女性支援ネットワーク』
- 5/28 『二本松市 独自で内部被ばく検査へ』
- 5/31 『生活保護の制度見直し～国と地方で8月に具体案』
- 6/11 『新宿アルタ前広場に2万人～脱原発訴え全国同時アクション』
- 6/15 『改正NPO法成立～寄付税制の優遇拡大へ』
- 6/18 『内部被曝の検査結果知らされず～原発作業員の被曝問題交渉』
- 6/21 『山下俊一放射線アドバイザーにNO～解任を求め署名開始』
- 6/23 『福島第一原発の津波高14メートルは誤り～市民が追及』
- 6/25 『学校の集団疎開求め仮処分申請～郡山の子ら14名』
- 6/30 『福島市の子ども10人中10人の尿からセシウム検出』
- 7/3 『沖縄・高江の米軍ヘリパッド建設に抗議～約130名がデモ行進』
- 7/3 『子どもの被ばく積算把握せず～福島のパパママ政府交渉』
- 7/16 『広瀬隆氏が山下教授や高木大臣、東電幹部らを刑事告発』
- 8/18 『「安心して暮らしたい」福島の子どもが政府に訴え』
- 8/26 『アスベスト訴訟原告団、解決に向け枝野官房長官に申入れ』
- 8/27 『食品安全委～100ミリ以下を「安全」として基準設定か』
- 9/1 『有機農家が東電に補償申し入れ～成田市』
- 9/2 『千代田区2小学校の砂場で独自基準上回る』
- 9/12 『311から半年～全国で脱原発デモ』
- 9/13 『経産省前で若者4人がハンスト～脱原発訴え』
- 9/19 『脱原発デモに6万人が参加』
- 10/2 『「アラブの春」NY版～ウォールストリートを若者が占拠』
- 10/5 『難民申請者らがデモ～スリランカ人などが参加』
- 10/5 『福島市渡利の土壌～一部チェルノブイリ特別規制ゾーンと同レベル』
- 10/28 『渡利の子どもの避難を求め、政府交渉』
- 10/31 『福島原発の下請け構造とは？～作業員Tさんインタビュー』
- 11/15 『福島第一原発の現地映像～限定取材に海外ジャーナリスト反旗』
- 11/26 『自主的避難者の補償は「見舞金」程度か原賠審』
- 12/3 『城南信用金庫が「脱東電」～原発を使わない電力会社へ契約切替』 ほか

◆ Live 配信

- 2/15 『寄付税制・NPO法改正の今国会実現を！NPO議連から最新報告！』
- 3/9 『国会への勧告～子どもを政争の具にしないで～緊急会見』
- 3/23 『【緊急報告】福島原発で何が起きているか？～現地報告と『原発震災』の真実』
- 5/25・6/14 『「寄付税制関連」市民議員集会』
- 6/1 『「誰でもできる！素人による素人のための放射線計測講座」』
- 7/17 『「欧州放射線リスク委員会のクリス・バズビー博士の緊急来日講演」』
- 11/11 『NUKE FREE ASIA 共同会見』

さよなら原発1000万人署名関連イベント

原子力損害賠償紛争審査会 計5回

子どもたちを守れ政府交渉

## ラジオ

◆1月～6月の間は、ボランティアの阿部浩一さんと高木祥衣のコンビで、月1回、FM わいわいと OurPlanetTVにて、30分のラジオ番組を制作配信した。7月からは、東日本大震災関係の報道や朝日ニュースターの番組開始にあわせ、番組を休止とした。11月からはアワプラジオのメンバーが制作に携わっている。

### 【配信番組】

- 1月 『ビルマの民主化、子どもたちの笑顔のために』（ココラット／ビルマ民主化支援会）
  - 2月 『日本の寄付文化が変わる！』（関口宏聡／シーズ・市民活動を支える制度をつくる会）
  - 4月 『東日本大震災後の東京を語る』（阿部浩一・高木祥衣）
  - 5月 『日本の死刑制度を考える』（遠藤賀子／アムネスティ・インターナショナル日本、死刑廃止ネットワーク）
  - 6月 『子どもの貧困や教育格差をなくしたい～NPO法人キッズドア～』（渡辺由美子／NPO法人キッズドア）
- ※3月放送分は震災の影響のため別番組に入替え

## （2）人権・環境を考慮に入れた国内外の優れた映像作品の翻訳・紹介

### 映像コンテンツの翻訳

翻訳ボランティアとともに15本以上の番組を英語化。海外メディアからの問い合わせも殺到した。

### 【翻訳番組】

#### ◆ 日英訳

- 『「20ミリシーベルト基準」撤回を～福島のパラドクスが文科省に要請行動』
- 『子どもを守りたい～年7ミリシーベルトの被曝で息子を失った母、語る』
- 『東京でも母乳から放射性物質が検出～茨城、福島、千葉でも』
- 『子どもを襲う放射能の不安～学童疎開は必要か』
- 『「福島原発に入って2週間」～原発作業員・続報』
- 『「明日から入ることになりました」原発作業員・続報』
- 『「覚悟はしています」福島原発・作業員の証言』
- 『山下俊一氏講演（5月3日・二本松市）【後半／質疑】』
- 『「もう原発はいらない」上関原発予定地からの報告』 ほか

#### ◆ 英日訳

- 『放射線測定ガイド（放射能に関する調査および情報提供の独立委員会 CRIIRADによるビデオ）①～⑩』

## 映画紹介

### 【事業内容】

国内外の優れたドキュメンタリー作品を、1ヶ月に1本のペースで紹介した。7月からは朝日ニュースターの番組にて、月1でドキュメンタリー作品を取り上げ、監督へのインタビューを行った。

### 【紹介作品】

- 『フード・インク』（監督：ロバート・ケナー／アメリカ）
- 『アムネスティ・フィルム・フェスティバル2011』（映画祭）
- 『平成ジレンマ』（監督：齊藤潤一／日本）
- 『幸せの経済学』（監督：ヘレナ・ノーバーク＝ホッジ、スティーブン・ゴリック、ジョン・ページ）
- 『青空どろぼう』（共同監督：阿武野勝彦、鈴木祐司／日本）
- 『PEACE』（監督：想田和弘／日本）
- 『タケオ ダウン症ドラマーの物語』（監督：常田高志／日本）
- 『山形国際ドキュメンタリー映画祭』（映画祭）
- 『釜の住民票を返せ！2011』（監督：金稔万／日本）
- 『関西クィア映画祭』（映画祭）
- 『大津波のあとに』（監督：森元修一／日本）
- 『さようならUR』（監督：早川由美子／日本）

## —市民の情報発信（パブリック・アクセス）に係る事業—

### （3）子ども・市民のための映像制作教育

#### 映像ワークショップ

##### 【事業内容】

- ◆ 通常の映像ワークショップに関しては、震災後に、受講者数が伸びたために、クラスを増設。週2回ワークショップを開催した。代わりに8月の短期コースは開催を見合わせた。
- ◆ 公益信託オラクル有志の会ボランティア基金に助成金を申請していた子どものワークショップを3月下旬に開催。小学校6年から中学生の計6人の子どもが参加。夏にはプランジパンの委託により、被災地にある七ヶ浜町立七ヶ浜中学校で、子ども向けのワークショップを実施。震災の体験を映像化する取り組みを行った。
- ◆ 撮影や編集、ライブ中継といった単発ワークショップは、希望が多かったもののスタッフの体制が十分にとることができず、実施を見合わせた。
- ◆ 12月に、東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）主催の映像ワークショップに講師として参加した。



##### 【実施期間】

- |         |                          |
|---------|--------------------------|
| 1月～3月   | 冬期映像制作ワークショップ入門編         |
| 3月29日   | 子どもワークショップ               |
| 4月～7月   | 春期映像制作ワークショップ入門編（2クラス）   |
| 8月1日～5日 | プランジパン主催 七ヶ浜中学校映像ワークショップ |
| 10月～12月 | 秋期映像制作ワークショップ入門編         |
| 12月3日   | JCN映像ワークショップ             |

##### 【ワークショップ完成作品】

- ◆冬期 「OurPlanetTV ドキュメント」 「Pray～a message from Tokio Fujiwara」
- ◆子どもワークショップ 「がんばれ日本 from 神保町」 「震災後の神保町レポート」
- ◆春期 「6.11 デモ」 「生きる喜び」 「震災から立ち上がる科学」 「切符、ちゃんと買えていますか？」 「天使の街～新大久保」 「堀りおこせ缶詰！」
- ◆プランジパン（七ヶ浜中学校） 「津波が来るとは思わなかった」 「被災地の記憶」
- ◆秋期 「ヒナンのキモチ」 「ペチャクチャナイト」 「日本人ムスリム」

#### 映像ワークショップ講師派遣

##### 【実施】

- |     |                             |
|-----|-----------------------------|
| 2月  | NPO 埼玉ネット（NPO 地域コーディネーター養成） |
| 7月  | プランジパン（未来を映そう映像ワークショップ）     |
| 12月 | 武蔵野美術大学（講師）                 |
| 12月 | 愛知大学（講師）                    |
| 12月 | 東日本大震災支援全国ネットワーク（映像ワークショップ） |

#### トーチプロジェクト

##### 【事業内容】



トーチ・プロジェクト 2010 企画賞に受賞し、制作に入っている作品は以下の通り。  
「人間やっています！」（社団法人 座 ダルクデイケアセンター）  
「高校生の挑戦」（特定非営利活動法人 F-site）  
「子どもが見つめるカンボジア」（カンボジア・愛センター）  
「A TESTING」（大谷清英さん）  
「A TESTING」の企画を出した大谷さんが、朝日ニュースターの番組制作に参加し、大きな貢献を果たしていただくなど、双方向の関係性を生んでいる。また、企画にある動物実験関連の映像も、ニュースとして放送に取り入れている。

#### (4) 市民が情報発信を行うためのインフラ・機材及び交流の場の提供及び環境づくり

##### メディアセンター

###### 【事業内容】

3 1 1以降、ジャーナリストや映画監督などの情報拠点として役割が高まり、情報のハブ的な役割を果たしている。一方で、4月以降、事業計画に入れていた事務所のシェアやライブ配信施設を貸し出す計画は、震災後の混乱や事務所の稼働の活発化によって、実施できなかった。しかし、状況が落ち着いて来た10月頃から、再度、シェアについては検討を開始し、ドキュメンタリー監督森元修一さんが12月から正式に事務所のシェアを開始した。

取材活動の活発化に伴い、老朽化した機材の故障が増えており、修理やメンテナンス作業が増加した。なお、3 1 1以降、取材に集中するため、ワンコインサロンは開催していない。

##### アドボカシーおよびキャンペーン活動

###### 【事業内容】

2月13日に東京市民ボランティア活動センターで開催された「東京ボランティアフェスティバル2011」に参加。弁護士の日隅一雄さん（現理事）とFMわいわいの日比野純一さんを招き、「パブリックアクセス制度を知っていますか？ ～メディアを変えることで、社会を変えよう～」を開催。100人が参加した。また、2月上旬には、2010年9月に視察した米国の市民メディア視察に関する報告書が完成した。

また、9月には、10周年を記念して、シンポジウム「メディアをうらむな、メディアをつくれ」を開催。スピーカーに日本テレビの統括デスクをしていた木下黄太さん、原子力資料情報室の澤井正子さん、コーディネーターに毛利嘉孝さんを迎え、非常に有意義な議論となった。来場者は約80人、ニコニコ生放送での視聴は3万人を超えた。

3月11日以降は、メディア政策に関わる取り組みは十分に行えなかったものの、原発関連の記者会見や取材への参加に関する申し入れや調整などは多数行った。

#### (5) 社会貢献を行う行政・企業・団体への映像・メディア支援

##### 映像コンテンツなどの受託制作

###### 【事業内容】

NPOに特化した制作となっている。

- \* WWF ジャパン（知床取材とコンサルティング1式、イベント映像1本）（5月、10月）
- \* マイクロソフト（長崎病院企業団のIT活用）（2月）
- \* ペイエクイティ（ペイエクイティコンサルティングオフィス）（6月）
- \* NPO法人健康麻将全国会（健康麻将のマニュアルビデオ）（5月）
- \* NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会（院内集会ライブ中継）
- \* 日本弁護士連合会（ビデオレター作成）（3月）
- \* NPO法人PACガーディアンズ（コミュニティフレンド事業紹介ビデオ）（3月）
- \* 原水爆禁止日本国民会議（ライブ中継）（10月）
- \* 山形国際ドキュメンタリー映画祭（ライブ中継）（10月）
- \* グリーンピースジャパン（ステパノワ博士ライブ中継）（12月）

##### NPOのための広報セミナー



###### 【事業内容】

2010年度まで4回1コースとしていたが、2011年度は回数を減らし3回連続講座とした。また、ソーシャルメディアへの高まりにあわせ、インターネットの活用および動画活用に関する内容を大幅に見直した。秋期は、10周年のイベントや特別番組への取組みを強化するため、実施を見送り、2012年1月に開催の予定である。

###### 【実施】

- 6月7日『NPOのための広報入門編』 参加者 10名（オンライン 2名）
- 6月14日『インターネット活用編』 参加者 9名（オンライン 2名）
- 6月21日『ビデオ活用編』 参加者 8名（オンライン 2名）

## 講師派遣

### 【事業内容】

◆ 広報戦略などに関する外部からの依頼としては、部落解放同盟のセミナー（10月）、全国社会福祉協議会企画の広報セミナー（3月、10月）に参加した。特に全国社会福祉協議会に関しては、企画やテキストの作成など、事業の実施全般に関わった。また、一般的な講演は、震災後しばらくは減っていたが、秋以降、例年並みの講演を実施している。

### 【実施】

- 3月 全国社会福祉協議会（広報力強化セミナー講師）
- 3月 部落解放同盟（広報セミナー講師）
- 10月 全国社会福祉協議会（広報力強化セミナー）

## 組織

### 10周年記念事業

- ◆ 9月9日に開催した10周年記念シンポジウム「メディアをうらむな、メディアをつくれ」では原発問題に関わる市民の動きに大きな影響を与えた発信者たちとともに、これからのメディアのあり方を模索した。（参加者：76名 ボランティア参加：5名）
- ◆ 11月19日に開催した10周年記念ファンレイジングパーティーでは、これまで10年の歩みを振り返りながら、今後の支援を呼びかけた。特別番組への賛同金も含め40万円近い寄付金を会場で集めることができた。（参加者：158名 ボランティア参加：18名）

### ファンレイジング

- ◆ 認定NPOの申請にむけて6月より「認定NPOプロジェクト」を実施。目標としていた「3000円の寄付者200人」を11月に達成することができた。
- ◆ Paypalを使ったオンラインでのクレジット決済による寄付を始めたことで、小額ではあるものの定期的な寄付が集まるようになった。また、今年度は10万円以上の大口寄付が3件（個人2・法人1）あった。
- ◆ 子どもたちによる2時間の特別番組を制作するにあたり、賛同金を広く募り、80名以上の賛同者を獲得。また、この番組への海外からの寄付を募る目的で、アメリカのクラウドファンディングサイト「IndieGoGo」にてプロジェクトを開始。11月に開始し、12月末までに約1200USドル（約10万円）を獲得している。（これについては引き続きプロジェクト進行中）

### スタッフ体制

- ◆ 6月にファンレイジングを担当する新規のスタッフを採用。フルタイムスタッフ4人となった。しかし、半年間の間に、オンライン以外の寄付開拓の見通しが立たないことから体制を見直し、再び3人体制とした。
- ◆ 7月に朝日ニュースターでの放送が始まり、番組制作ボランティアとして26名が参加している。また翻訳ボランティアとして15名が活動に参加。インターンは海外からの学生も含め26名を受け入れた。

2011年度 収支報告  
2011年1月1日～2011年12月31日

科目	【予算】支出の部	支出の部	【予算】収入の部	収入の部
事業 収入			16,400,000	12,741,675
番組制作情報提供			300,000	148,000
映像作品紹介			50,000	-
メディア教育支援			3,200,000	3,831,254
メディア環境整備収入			600,000	185,204
社会貢献メディア支援			12,250,000	6,361,947
10周年記念事業収入			600,000	793,420
会費収入			2,000,000	1,010,000
助成金収入			-	900,000
寄付金収入			500,000	2,751,167
取材謝礼・原稿料収入			-	220,000
雑収入			-	1,720
受取利息収入			-	1,207
<b>収入 計</b>			<b>19,500,000</b>	<b>16,203,919</b>
番組制作情報提供支出	500,000	1,302,939		
映像作品紹介支出	50,000	900		
メディア教育支援支出	630,000	393,980		
メディア環境整備支援支出	100,000	78,550		
社会貢献メディア支援支出	2,240,000	575,900		
10周年記念事業支出	400,000	709,924		
給与手当(事業)	9,000,000	9,886,185		
<b>事業費 計</b>	<b>12,920,000</b>	<b>12,948,378</b>		
法定福利費	1,500,000	1,439,457		
福利厚生費	10,000	3,814		
通信費	440,000	522,735		
荷造 運賃	100,000	76,582		
水道光熱費	400,000	381,587		
旅費交通費	500,000	383,650		
WEB構築費	-	-		
会議費	20,000	32,108		
事務用消耗品費	100,000	102,915		
備品消耗品費	500,000	305,068		
新聞図書費	200,000	195,403		
印刷経費	250,000	243,206		
修繕費	200,000	48,405		
地代 家賃	2,120,000	2,116,800		
保険料	30,000	28,780		
租税 公課	100,000	2,016,100		
諸会費	10,000	1,312		
雑費	-	10,500		
支払手数料	100,000	64,776		
<b>管理費 計</b>	<b>6,580,000</b>	<b>7,973,198</b>		
<b>支出 計</b>	<b>19,500,000</b>	<b>20,921,576</b>		
<b>当期収支差額</b>				<b>▲4,717,657</b>

貸借対照表  
2011年12月31日現在

科 目	金 額		(単位：円)
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	5,841,037		
その他流動資産	972,744		
流動資産合計			
2 固定資産			
固定資産合計		1,092,000	
資産合計			7,905,781
II 負債の部			
1 流動負債			
流動負債合計		400,085	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			400,085
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産	12,225,283		
当期正味財産増加額		4,717,657	
正味財産合計			7,507,626
負債及び正味財産合計			7,907,711

財産目録  
2011年12月31日現在

科 目	金 額		(単位：円)
I 資産の部			
1 流動資産			
預金	5,197,936		
現金	290,019		
郵便振替	353,082	5,841,037	
その他流動資産	972,744		
流動資産合計		6,813,781	
2 固定資産			
保証金	1,092,000		
固定資産合計		1,092,000	
資 産 合 計			7,905,781
II 負債の部			
1 流動負債			
前受金	70,000		
預り金	330,085		
流動負債合計		400,085	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負 債 合 計			400,085
III 正味財産の部			
正味財産合計			7,507,626